

『死者の書』とは…稀代の民俗芸能学者であり、詩人釈空空としても活躍した折口信夫が当麻寺に伝わる曼荼羅を織り上げた中将姫の伝説をもとに書き上げた自伝的小説。

あらすじ:平城京の都の栄える頃のこと、春の彼岸中日、二上山に日が落ちるとき藤原南家の郎女(中将姫がモデルとされる)は尊い倂びとの姿を見た。それ以来、千部写経の成就に導かれ、非業の死を遂げた滋賀津彦(大津皇子がモデルとされる)とまみえ、尊い倂びとと重なるその姿を蓮糸で曼荼羅に織り上げて行く。全てを成し遂げることで郎女は、さまざま魂を鎮め、自らも浄土へ

といざなわれ

ていく。

滋賀津彦、

郎女両

方の世

界を映

面の

コ

ラー

ジュの

ように

構成して

いるだけで

はなく、折口

本人も「書いて

いる中に、夢の中の

自分の身が、いつか、

中将姫の上になつていたのであった」(『山越しの阿弥陀像の画

因』)と書いており、この世とあの世、男性性と女性性が交

錯している独特の世界は、著者折口の魅力もあって長く多

くの読者を魅了してきました。

本プロジェクトはこの世とあの世、時空を超えてただ祈る、

希うという舞踊の根源に立ち返り、折口が芸能研究から見

出したものをヒントに、折口の恋を再び見つめてみようとする試みです。



### 木野彩子 Saiko Kino

札幌生まれ。幼少よりモダンダンスを始め、ソロを中心に自らの身体と向かい合い続ける。

“Edge”でYokohama solo duo competition 2003 財団賞を受賞。2004年文化庁在外派遣研修員、2005年よりRussell Maliphant Companyのダンサーとして活動。帰国後はセルフドキュメンタリーの手法を用いリサーチに基づくダンス作品を制作している。代表作に“静”、“からたちから”、“Mobius”、“ダンスハ體育ナリ”など。

2016年より鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師、2017年即興音楽とダンスを鳥取のまちなかで展開する鳥取夏至祭を開始。

<https://saikokino.jimdo.com>



### 杵屋三七郎 Sanshichiro Kineya

日本伝統音楽 長唄 唄方

三代目杵屋三左衛門に師事する。京都妙心寺大法院閑栖松岡宗訓調に入門し、茶道、花などを学ぶ。東京芸術大学音楽学部卒。国内外で様々なジャンルのアーティストとの作品参加も多く、その歌声は高く評価されている。日本の伝統芸術や音楽を尊重し、現代に生きる古典という三七郎独自の世界を生んでいる。



### やぶくみこ Kumiko Yabu

音楽家/作曲家。1982年岸和田生まれ。京都在住。英国ヨーク大学大学院修了(コミュニティミュージック)。ジャワガムランや様々な楽器を用いて、楽器の本来持つ響きや音色、演奏する空間を生かした作品を提示するほか、舞台芸術の音楽も手がける。京都にて即興から音楽を作るガムラングループ“スカルグン

ディス”を主宰。「待つ、ひらく、尊重する」をヒントに新たな共同作曲の可能性を模索する。淡路島にて野村誠と『瓦の音楽』を2014年より監修。2018年はマルセイユの国立演劇学校にて講師、城崎国際アートセンターにて即興と作曲のワークショップを定期開催。

<https://www.kumikoyabu.com/>



### 三浦あさ子 Asako Miura

舞台照明家。東京都出身。多くの振付家・演出家・ダンサーと作品作りをともにする。木野彩子とは2010「かめりあ」、2012-14「しづ」・「静」シリーズおよび「AMANOGAWA プロジェクト新百合ヶ丘(映像作品)」をともに製作。

Re-interpreting “The Book of the Dead”  
The Book of the Dead—An explanation: The poet and outstanding ethnologist’s Shinobu Orikuchi’s autobiographical novel based on the legend of Ehjuo-hime, who, according to legend wove the mandalas at the Taima-dera monastery.

Synopsis: During the period the city of Heijyo-kyo prospered, on the spring equinox day, the noblewoman of Fujiwara Nanke (modelled on Ehjuo-hime) caught sight of a ghost as the sun went down behind Mount Futagamiyama. After that, guided by the fulfilment of the 1,000 hand-copied sutras, she kept seeing Shigatsu-hiko (modelled on Ohsu-no-miko), who had come to a tragic end, and began weaving the ghostly shape into the mandala with lotuses. By finishing weaving the mandala, the maiden soothed the wandering soul and was herself guided to the Pure Land.

What has long fascinated many of Orikuchi’s readers was not only how he re-created both Shigatsu-hiko’s and the maiden’s story like a movie collage, but also how he depicted the unique world in which masculinity and femininity intersect with this world and the other world. “While writing, my body was as though in a dream, and at one stage I found myself lying on Ehjuo-hime.” [He also wrote in his essay “The cause of Yamagoshi Amida”].

This project is an attempt to seek out the root of a dance that prays for the beyond of this world and that world, to transcend time and space, from Orikuchi’s artistic discoveries and once again looking at his ideal of love.